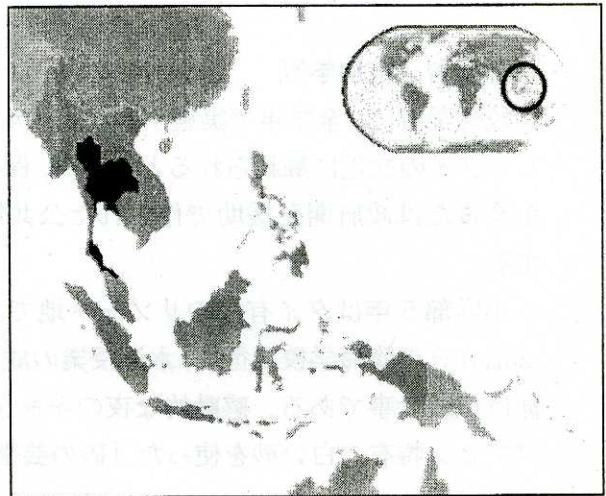


1, タイの概要

(1) 歴史

タイの民族国家成立以前、中国華南に住んでいたタイ民族は、インドシナ半島を南下して現在のタイの位置に定住するようになった。当時、タイには、モン族、クメール人が先住していた。

小タイ族による最初の国家とされるスコタイ王朝（1238年 - 1350年）は、インタラーテイト王がモン族やアンコール王朝の支配を退け成立した。タイ語のアルファベットであるタイ文字が完成したのは、3代目ラムカムヘーン大王の時代であると言われている。その後、アユタヤー王朝（1350年 - 1767年）、トンブリー王朝（1767年 - 1782年）を経て、現在の王朝であるチャクリー王朝（1782年 - ）へと変遷した。現王朝の初代王ラーマ1世（チュラーローク将軍）は、1782年に首都をトンブリーからバンコクに移したため、バンコク王朝とも呼ばれ、また、バンコクの非常に長い正式名称にも含まれているタイの守護仏の名から、ラッタナーコーシン王朝とも呼ばれる。



(2) 政治

タイは1932年の立憲革命を経て、政治体制としては国王を国家元首とする立憲君主制であり、議院内閣制を採用している。また、憲法において信仰、言論、出版、集会、結社、政党結成、通信の自由が保障されている。しかし、たびたび軍事クーデターがおき、軍事政権が樹立されて、憲法が停止し、文民統制などの抑止装置が働かない状態が起こる等、軍政と民政がくり返されている。

来月の7月3日には現在の政権後初の総選挙が行われ、現政権のアピシット首相と元首相のタクシン氏の妹のインラック氏の対立が激化し、政情が不安定になる可能性もある。

2, バンコク日本人学校の概要

(1) 概要

バンコク日本人学校は、1956年（昭和31年）に在タイ国日本人大使館付属日本語講習会として創設された世界で最も長い歴史を誇る日本人学校である。1972年にバンコク日本人学校と改称し、1974年（昭和49年）からは泰日協会が設置者となり、泰日協会学校（通称バンコク日本人学校）としてタイ国私立学校法に基づき政府から正式に義務教育学校として認可を得る学校となった。

児童生徒数は2479名、日本人教員数115名（2010年10月現在）となり、規模の上でも世界で有数の日本人学校となっている。

(2) 学校教育目標

- ・思いやりのある子（徳育）
- ・創造性を発揮し、積極的に学ぶ子（知育）
- ・国際性豊かな子（国際性）

(3) 特色ある教育課程

・交流学习会

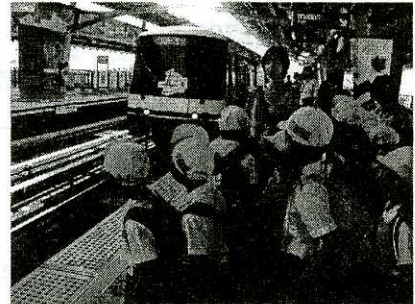
毎年中学部が1学期に、小学部は2学期に近隣のタイの学校と交流を行う。授業で学んだタイ語や英語に、身振り手振りをまじえて自分の思いを伝える。子どもたちは、ものの考え方の同じところや違うところに気付き、国際性を養う行事になる。



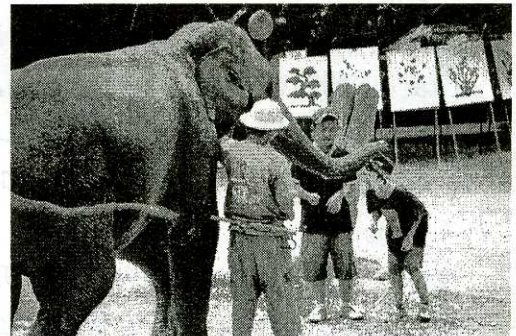
・校外学習、宿泊学習

校外学習は、全学年で実施する。教科等の学習の一環としてタイの文化に触れられるところや、保護者の働く日系企業または政府開発援助で作られた公共施設などを訪問する。

小学部5年はタイ有数のリゾート地であるファヒンで2泊3日の臨海学校を行い、水泳授業の成果を発表する遠泳は伝統行事である。感動的な夜のキャンプファイヤー、ファヒン特有の白い砂を使った「砂の芸術祭」では、友だちと共に作り上げる喜びを味わうことができる。



修学旅行では、小学部6年生はチェンマイに行き、ドイステープ寺院、エレファントキャンプのほかに現地校との交流や、農家訪問を行う。中学部2年生は、世界遺産のスコータイ遺跡、山岳少数民族の学校、スコータイ芸術学校などタイ北部を訪問する。



※小学部 校外学習目的地

1年生	サファリーワールド見学	4年生	浄水場見学
	ルンピニ公園見学		プラネタリウム見学
2年生	BTS,MRT 探険 学校まわり探検	5年生	ファヒン臨海学校
	マックスバリュウ スーパーマーケット見学		TOYOTA自動車工場見学
3年生	味の素工場見学	6年生	チェンマイ修学旅行

